

11. 線状降水帯は西日本特有の気象か、東北地方には関係ないのか？

線状降水帯とは、気象庁 HP では『次々と発生する発達した雨雲(積乱雲)が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ 50～300km 程度、幅 20～50km 程度の強い降水をともなう雨域を線状降水帯といいます。』と解説しています(図 1)

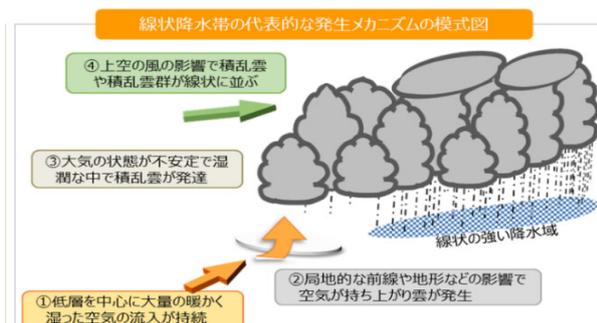


図 1 線状降水帯の発生メカニズムの模式図
気象庁 HP より

表 1 に令和 5 年の線状降水帯発表事例を示します。表には 11 件の発生状況が示されています。地方予報区における線状降水帯の発生頻度は、概ね西日本で発生していますが、東北地方でも線状降水帯は発生しています。

表 1 を含め令和 4 年(2022)以降、東北地方では下記の事例が発生しています。

① 令和 4 (2022) 年 8 月 3 日、山形県、新潟県で線状降水帯が発

生しました(気象庁)。yahoo 記事によると『「顕著な大雨に関する情報」が発表されました。～中略～東北地方で発表されるのは運用開始以来初めてのことです。』と解説があります。

② 2023 年 8 月 12 日 7 時 50 分、岩手県内陸に「顕著な大雨に関する情報」が発表されました(tenki.jp)。幸い大きな被害はなかったようです。

③ 2023 年 9 月 8 日、台風第 13 号周辺の暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、東日本、北日本で大雨となり、関東甲信地方及び東北地方で線状降水帯が発生しました。いわき市では広域の浸水被害が発生しました。そして同市で 1 名の尊い命が失われ、負傷者 5 名の被害。また、住家被害は、約 1,800 棟、その他の施設及び関連被害も約 1,000 箇所と市内全域に被害をもたらしました。

線状降水帯は東北地方には関係ないのか？ 地球温暖化の影響により、今後東北地方でも線状降水帯などの災害をもたらす大雨の発生確率が高まると予想されます。気象情報には十分注意してください。

(K.M.)

表 1 令和 5 年の線状降水帯発表事例

www.jma.go.jp/jma/shou/know/jirei/senjokousuitai

線状降水帯の発生日 ^{#1}	地方予報区	線状降水帯の発生状況	呼びかけ状況	3時間降水量最大値 ^{#2}
8月6日	沖縄地方	線状降水帯が発生(沖縄県)	呼びかけを実施	約140ミリ
8月5日～8日	九州南部・奄美地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約130ミリ
8月9日～10日	九州南部・奄美地方	線状降水帯が発生(鹿児島県、宮崎県)	呼びかけを実施	約190ミリ
		線状降水帯が発生(熊本県、大分県)	呼びかけを実施	約150ミリ
8月10日	四国地方	線状降水帯が発生(高知県、愛媛県)	呼びかけできず	約180ミリ
8月12日	東北地方	線状降水帯が発生(岩手県)	呼びかけできず	約150ミリ
8月15日	四国地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約100ミリ
	中国地方	線状降水帯が発生(鳥取県、岡山県)	呼びかけを実施	約160ミリ
	近畿地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約190ミリ
	東海地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約190ミリ
9月6日	関東甲信地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約90ミリ
	四国地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約60ミリ
9月6日～7日	北陸地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約90ミリ
	東海地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約90ミリ
9月8日	関東甲信地方	線状降水帯は発生せず	呼びかけを実施	約50ミリ
	東北地方	線状降水帯が発生(東京都、千葉県、茨城県)	呼びかけを実施	約250ミリ
9月14日	東北地方	線状降水帯が発生(福島県)	呼びかけできず	約250ミリ
9月15日	九州北部地方	線状降水帯が発生(長崎県)	呼びかけできず	約170ミリ
9月21日	近畿地方	線状降水帯が発生(奈良県、和歌山県)	呼びかけできず	約200ミリ